

教員名	米田 俊彦 (YONEDA Toshihiko)
所 属	文教育学部人間社会科学科教育科学講座
学 位	教育学博士 (1989 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	yoneda.toshihiko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

教育制度 / 教育政策 / 教育法令 / 教育改革

◆主要業績

総数 (6) 件

- ・教育史学会編『教育史研究の最前線』(日本図書センター、2007年3月、共編著)
- ・米田俊彦編『大日本職業指導協会と機関誌『職業指導』(続)』(COE報告書、2007年3月、編著)
- ・米田俊彦「三上敦史著『近代日本の夜間中学』」
(日本教育学会『教育学研究』第73巻第3号、2006年9月、pp.257-259、書評)
- ・米田俊彦「教師の資質を行政が保障する時代!？」(民主教育研究所『人間と教育』第51号、2006年9月、pp.23-30)
- ・米田俊彦「日本の幼稚園 130年の歩みの中で」
(『お茶の水女子大学附属幼稚園編『時の標』フレーベル館、2006年11月、p38)

◆研究内容

『近代日本教育法集成』の編纂を継続している(すでに10年近くを費やしている)。大日本帝国憲法・各学校令制定前後から日本国憲法・教育基本法制定前後までの旧教育法を、一部抄録としつつ、主要なものを改廃を含めてすべて収録して、分類・体系化したものを編集している。作業は最終段階に入っている。また、関連して、1938年刊行の『明治以降教育制度発達史』の内容分析を進めている。

◆教育内容

学部・大学院のいずれにおいても教育史、教育制度論などの授業を担当しています。専攻科目のほかに教職課程の授業も行っています。担当した卒業論文の題目は「大学部活動の戦後史—お茶の水女子大学バスケットボール部を事例に—」「育児雑誌における育児言説の変容」「公立高校における男女別学制存続についての一考察—宮城県を事例として—」「旧制中等学校・新制高等学校の校舎建築の変遷」、修士論文の題目は「1930年代のジャーナリズムにおける家庭教育論議—学校教育と家庭教育の関係を中心に—」でした。

◆Research Pursuits

I am teaching subjects about the history of education or system of education. I led students who wrote graduation theses on the theory of the preschool education of SHIRAI Tsune, the board of education, and the consultation for children by telephone, and a master's thesis on the general education in the teacher training.

This work is now the last stage.

And, in relation to this study, I am analyzing the content of "The History of the System of Education since the Meiji Era" published in 1938.

◆Educational Pursuits

I am teaching subjects about the history of education or the system of education in the faculty and the graduate school. I teach subjects of teacher-training course, too. I led students who wrote graduation theses on the history of the postwar of the club activities in the universities, the change of the discourses in magazines on the child-rearing, the continuation of the system of separate sex education in public high schools, and the change of architecture of secondary schools, and a master's thesis on discussions on home education in the journalism in the 1930s

◆将来の研究計画・研究の展望

教育法制史の研究をまとめることができた場合には、戦後教育史、できれば農村地域にも広く展開した定時制高校（高等学校定時制課程）の実態を明らかにする研究に着手する予定で、少しずつ準備をしています。

◆受験生等へのメッセージ

私は教育の制度や現象を歴史的に考察する研究活動を行っています。歴史研究は、古い時代の事実を明らかにするばかりではありません。現代に直接かかわることがらについても、その経緯をみる必要があるはずです。歴史とは、領域であると同時に方法でもあります。歴史の事実を明らかにすることも大切ですし、ものごとを歴史的に捉える力量も大切です。このふたつのことを大切にしながら、教育史関係の授業を担当し、論文作成の指導をしています。